

2020年トランプとアメリカの命運

米国弁護士 湯あさ 浅たかし 卓

- * 前回はコミー長官の暴露が響く
- * バイデンは差別主義者
- * 若者はコロナが怖い
- * バイデンは透明人間
- * メディアの心離れ
- * アフリカ系若者の動揺
- * 脱石油発言の影響
- * 接戦のベンシルベニア
- * 最後は天候次第？
- * 民主党との交渉は難しい



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、アメリカのニューヨーク、ワシントンD.C.で弁護士をされておられる湯浅さんにおいでいただきました。

ちょうど4年前にここへ初めておいでになりました。トランプの当選の直前で、大方の予想に反してトランプが当選する可能性についてお話をされました。それから2年前に中間選挙の前にもおいでいただきました。今回も大統領選挙の直前でございますので、さまざまな角度から今回の大統領選挙について、あるいは米国の政治状況についてお話をいただけたと思います。

それではよろしくお願いたします。（拍手）

前回はコミー長官の暴露が響く

湯浅 ご紹介にあずかりました湯浅卓です。私は、皆様とこういう機会でお話しさせていただくのが非常に楽しみです。

最初のポイントは、今シャープなご指摘をしていただいたように、前回の大統領選挙では、全体像を見るときにヒラリーとの比較がポイントになるということでした。基本的にヒラリーの場合は当時のコミーFBI長官が暴露したことが響いたわけです。何を暴露したかというヒラリーの私生活が非常にスキャンダラスなものだったということにあきれ果てて、こういう人物に大統領になっていただくのはあまりにも良心がとがめるというので、その一端を暴露し